

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
© The Minn Company, 2000
LICENSED PRODUCT



大坂のついで
菅師北高要

こつせいのふつうあひ
滑舌二日酔

十通全一九若
菅師北高要
元日

2843
2



へ13
2843
2

2843
2

滑稽こつげい二日酔ふつり下編あひ

元日之部

東武十返舎一九著



冬とよ坂さか登のぼる初日はつひの加くげげ兼あににひききき子こ加かささ之の
海うみ連つ繩な長ながああしてして門かど松まつ枝えととああららささばばれれ若わかららびびふ
及およびびゆゆづづりりああみみおおととけけのの新あらたららししいい板い塀べみみ添そめて
手て裁きああゆゆませませ羽は根ねととつくつくををごご板いのの願ねがいいををああららせせ
みみががらら振ふ袖そでのの尻しりととめめりり。紙かみ著かののいいととままみみかかららめめどどもも。
委い細さいかかままののたたをを生なま碑いしととままたたつつけけててくるくる下げ戸このの首くびいい。

尚日卦百鋼の恩射によりて迷惑とくらぬるまじ。
さればきのみの鬼の角目ごちて。その虎の皮の禪
とぞまきこころしゆらぬの惚めこやりに。法華中入ます
のこそ名家くいにさあげふやうつりかたりぬく人のさる。
曼助筆南の酒小碎くるがどく。かの一体禪師の世茂
瓢箪の種きたるへめかといつ。そまぬいあたらねど。
将業師の獅子飛早く助のまの人のとまこくさ。いま
りつて胸の勃氣のやまざれども。系尻とも思はずされ
ども餅苴の大判のまかにくづれど。ま附の令焼

石に水となりてまき又由勝らぬ。重づれば小ぶみあいの
荒和布の仕着しこれども。その方のさるがら。二条乃
后の欠落にひそく。このまきあて。主婦とも思ぬり
にせし。庵んづらものひらちうら。赤剣の雑考のち
後みさのちう▲礼者モノモウ▲志まへどあせ▲礼者へあはは
孫たう法華中入ますト。おたすむると又近所の
おめでこころしゆらぬの惚めこやりに。法華中入ます
は支夜がでたすしゆの。おきさん。おめへのねぐしのかつり
さんくへ▲まきこころしゆらぬの惚めこやりに。法華中入ます



かくふこざりませむ。礼者れいしや「どあるこも内をどおきん籠かごでかめせしむ
 ▲女方にょはたあるこでも。かそら掛かひあさつつてかりのりゆなく。かめせ
 とうこざりませむ。ホニホニ手てまへにかまけていちを沙さ汰たむらう。
 さらどか坊ぼうさんの内うち成人せいじんでこざりませむ。かふねちんとぞん
 してもありなかたませむ。いま月つきそうくらうちのれの又度たび
サのあらへ人ひと拍ひの以接せ接せ被ひ是こにしひとり。二に月つきあり
 ませとヤレ初はつ年ねんぶのあんのと友とも達たち元もとが来てあまての焼きもら
 せませむ。二に月つきいま子こ供どもいなくともうらうが身後ごひつさ
とも籠さぬとからぬいらりませず。四よ月つきいちか釈迦ださぬの

内うち誕生たんと生せい八はち月げつの拍りち。六む月げついち天てんまさぬ。七しち月げついちあると。サアいそ
かしい七夕しゆさぬにか精しやう美みまつりホニのいひ。あけいのるいさらう
 ません ▲居のモシちがつさぬ。いちぬいりげんにかりのあやい。
礼者れいしやのア。とろく小初こつてままのつちあります。▲女にょ方はた
 ちのさぬいつのるにいつちうりあさつこぞ ▲掛ハア
 一いちり八はち月げつあぶんホうつらまやります。▲女にょ方はた「子そん
 あり。そのいつくくまいいのいちれどとあらの六む月げつうらん。
 又またちのおか人ひとへちあすめの成なりヲヤそまいのが掛七しちぞん
 こんのア今五ご鉄てつ筒とう臺たいへ吹くらをそのこよアねへり掛

「アイコ」や「アハ」火と焚ひをむくにあるめんぶアウらそのあか「灰吹ぶアと
 おのつこんぢうけ中ちゆうからさつたますい「女房にようぼう」司つかまたねへそん
 むらつたもさつたらふの▲控「アイコ」アい疼いんのちぶアウらあ
 上ふいてけありへやら「壹いつサアさちり」い▲女房にようぼう「けいがは枝え」
 そまじアあらびよ「いまのおもそれ鉄鑿てつさくとつけらたそ
 ぶせうまたねへんのふトこ「おまとつらくてそまら
 おせうあらさるさつちやりませらたおもちはさらいるさらいるさらいるさ
 ▲おま「イヤこまのおせうさぬおさからう元げん日にちくらおれとお
 めつじい▲おせうあらさぬつとされてぶぶらり去き年ねん交この

るふんがひとり。死しあましつつつ今日けふ一周いっしゆうとでこらるさや
 そまじでつぶくというの。実の悪徳あくとく延えん壽じゆうをしに出
 りけまし「その津つとりをい一いつ年ねんの暮までの悪あく徳とくをい
 不ふ仕し合あでこまつこら。去き年ねんの元日げんにちをうくら。去き年ねんの
 不ふの葬礼さいらい居いのとぶらららでおまじてあることおれ
 ども。年としのとりめにまづめでいのさだめ「あといふ
 仕し合あへらりふと脱んぞかつこら。一いち掃び形がたの一カか福ふくや毒なら
 どの。お親おん父おふ丈ちゆう婦ふに今ひしの飯をくつきて死ならしめこら
 とれと人らちとれの葬礼さいらいコリヤリといふぶづめでいのさと。

ち中の大ぶらこびを造りら檀旁に打ついで大分
死せられこ人があつて。大まに勝手とあそびませ
それで今年も元日と有り。貴物の所へ送つて圓向に
系つこのどくちで。▲ちま「それいさぐさうござり
また私もたそのとまのいおちへ系る所でござりばし。
種業の下務古で様我といつて目とひたつけて。大さ
まをやりませ。▲かせう「それいさうつ。コリヤ小傍よ年
玉の納豆二粒出せ時にそつてとよさあつて。▲ちま「イヤ
仕合と早速いさぐつたませ。今日いけ通り。▲かせう「ハテ

のこ ちま。あつと
残り多い納豆のひと箱であつて。▲女房「おろろとど
か年玉のどくちござりませ。とよさあつて。▲ちま「酒上ませうら
▲かせう「んはちやんとどろ。無傍出のけりからかくのとどろ。
大生碑おひらとどろ。▲ちま「内きのあつし
めでうござるヤア。▲ちま「コレはよくお出ませう。此ま吹の
あつてうござりや。▲ちま「お出さうとあつてござるヤア。是
なうとあらめのと金銭かせませず。▲ちま「ハイ。まの何より。
コリヤおちやんあつてが又金をめをよとかつちやん。サア、まが
あちうへコレを置と出さう。▲女房「ハイ。先か番係いさう

ませうり ▲女房「あんぞおはひめのもでもコレ控七新及の者や
 へいつく。何ぞあつうとつここの ▲控「のそこまき」
ちねふり
ゆりさ ▲控「アイ今あつちうらめつとまます ▲女房「そん
 むら控七とん端へ水とひきて。そこへ替つけてらんあせへ
 ▲控「コレおにをびくあつア。そけ坊さぬもちやア物なく
 さいさいにまのさるあつ ▲おせう「コレヤ小僧めのとあつちうれ
 ▲女房「アイをそでもよふあつちうまをうら。お小僧さんそりして
 居あするまたちあつとけかつぎ替替とあつてらんあせへ ▲小僧
 「ういそんあてまうませぬ ▲控「そんごうハア お寺さぬあせへ

でもこのまてアレまご流ごうまごそあごア ▲女房「た
 めんありませ。例年の万歳ねあまでござります ▲女房
 「アイくサアおあがりあつちうませ ▲女房「まづよのまてであめで
 しょうごうります。けお若ハク〜うごうのおあつちうあつちうマ
 ちあつちう列条あつちう珍重にぞんじます ▲控「このあつ
 ちうのあつちう。あつちうのあつちう。コレあつちうあつちうあつちう
 のあつちうあつちう ▲女房「アイよりア是へあつちうあつちう
 ちうあつちうあつちうあつちうあつちうあつちう ▲控「ホンニコレヤアハア
 十餘とちうあつちうア。そはあつちうあつちうあつちうあつちうあつちう



「女の身」の人の持もねへそしてまじお寄のそら
ねへどやアねへり▲「控」アイさらぬアまじお寄のそら
のこごるあまよく儲とありへてのけあせへトけうち「ハイ」のつて
まのり中へトおつめあま▲「控」コリヤハア あんとすべの。さらぬア
さらぬのつて来おつて▲「女身」ちよつくりあんとこが料理
してくねへり▲「控」ア あんとすべりありまじお寄のコレ
かちぬおまへけいそがしいハア。そよして居つてありりア
このさらぬアちよつくり切くれさらぬ志中の▲「女身」拙志とど
今旦那がこぞあらうは酒とどく来つておよつてつむりが

ふらつとくおみてら出来ぬりちつとあるじや破る
うち。そさらぬ。料理してやうまじ。おえでいちくと鹿
丁もやりりらりのめいよ▲おせうコレはお寄あお力とめい
おのちの懸傷も碎ておるけえぬ。昔ののちつり懸傷
「力」とまひませうり▲「女身」コリヤ出来まじ。おあへのお
着ふよよこごりませう▲おせう「懸傷」も毎年力とめい
おられるが寺の力への在承とちがひませ。懸傷よく覚
ておる。コリヤ小僧よこれおれもソレおあまじやんよやつておんおる
力への夜ごア、仏檀の本魚と被のつらうおホクくとこけ

たけ。サアものり。今やりますぞ。▲さるが「コリヤ」風流な
出カが「ごりうらむく」ト け内さるがた出者出て ▲おせう「徳者お
万歳といおさるもさるへくまけんます ▲本魚「ホクク」▲おせう
「大病ありらる人魂の飛くも来るおさるまい」大葬火葬
の茶に「おさる」おさるへふあて。ゆくりんり鹽と持ててこひや
の念仏おさるをほふとさるへ極まるもまにゆりく。本寺建立
に「せうておまへ」材木お進が「百人瓦の籠りかみ
百人お石障中が「百人合せて千六百人の煙方かま
アおさる」とつらせおひらる ▲本魚「ホクク」▲小ぞう「ホウ」これら

そろく「万才」▲おせう「めで」ふおと「万才」大蔵さんどの動物
さるふ。か寺さぬへ「南来」の「お方」うら「葬れ」が来る。葬れと
ゆきぶや。りけむくに「後」や「輪」みと「おの」おぬて「能」まが「大
ぜい」来つて「小ぞう」ヤレく「強」版と「中」さぶ「そら」ら「ら」の「を」食
ん「ち」や「め」う「ら」ぶ「る」で「おつ」こんで「腰」の「ひ」ら「や」さ「ら」ら
く「お」べ「い」ぞ「あ」ら「う」や「こ」つ「おつ」こ「ら」ら「ら」ぶ「れ」い「おせう」ア
系る ▲小ぞう「ナニ」け「系る」▲おせう「酒」が「系る」酒と「中」さ「る」や「湯」桶
おく「瓶」の「つて」そ「ら」の「や」そ「つ」こ「ら」の「元」へ「ま」つ「つ」▲小ぞう
酒と「中」さ「る」や。和「尚」さん「も」か「さ」る「も」や。や「や」う「中」さ「る」大「蔵

まんぞの卵塔場の水むけ茶屋で。あつたのも湯豆腐哉
くつをさんで。めんの人ごうよりんづい。ヤリく。おせう「まごく
系る。七日のまのつりに。お女ご流が系る。▲小ぞう「お女ご流と
尸さぶや。されたふたつ。こかうのさぬ。なりも瘦く病身
そふで。今にてさねよう。是もふんが。あとに。つこかうめ
女いふ。つてうでづんぐりして。老が。よく。を。老。そふぞく
お志やり尸は。さう。やうのやうさ。宿場の。こ助まんぞの。鉄
ゆつて。ぶちこめ。細。その。つこ。た。こんで。な。その。つて。ま。り
や。まん。と。ふん。づけ。さ。あ。ち。の。ち。や。ふ。ろ。ん。づい。を。ヤリく

まのちやうこく。▲おま「モ。おせう。まん。あ。ん。ま。り。づ。ね
どこのく。あ。う。そ。ん。さ。い。め。入。ま。の。方。丈。が。あ。の。ので。ご。ご。う
ま。せ。う。あ。ん。で。も。欲。と。を。し。て。税。つ。て。ま。ま。ひ。ふ。百。万。年。の
内。来。命。と。い。ま。ね。入。け。つ。や。ア。め。で。ご。ご。う。や。せ。ん。▲お。せ。う
「イヤ。お。家。の。そ。ふ。で。あ。ろ。ふ。が。横。方。に。百。万。年。も。計。ら。ま。い。て
け。方。お。ま。り。が。あ。る。め。ろ。そ。ま。ご。う。ら。も。へ。く。る。方。丈。の
を。あ。け。開。く。税。つ。て。あ。の。ま。ま。に。注。ご。ま。ご。う。て。お。ま。が。老。例
で。ご。ご。う。て。▲お。ま「お。て。ら。い。と。も。う。く。も。茶。屋。の。う。ち。で。そ。ふ
で。の。つ。ま。り。や。せ。ぬ。コレ。方。丈。の。お。ま。さん。お。入。こ。ま。ご。う。ご。あ。を

いっしあぞーてくんみせへあ ▲男大「あやうちあやうち」
あうーあがら杜若めもやうとは海下されこが海小碎あ
と浪上戸あやれよつこぞよこざうふり ▲女大「ソリヤとん
びてびげよまゝ。ちめ入にあらせてたまるものう。ノウ後海
のかあはらろやドませいろくあ目おあひますと ▲さるが「
ありーかりーろいこんでざざうつさアが寿さうぬもひらの
まのりませ」
▲男大「コレはあいらう碎まーい。ゆもや杜若のちの味さいらつ
あやうちあやうち」
いっしあぞーてくんみせへあ ▲男大「あやうちあやうち」
あうーあがら杜若めもやうとは海下されこが海小碎あ
と浪上戸あやれよつこぞよこざうふり ▲女大「ソリヤとん
びてびげよまゝ。ちめ入にあらせてたまるものう。ノウ後海
のかあはららろやドませいろくあ目おあひますと ▲さるが「
ありーかりーろいこんでざざうつさアが寿さうぬもひらの
まのりませ」
▲男大「コレはあいらう碎まーい。ゆもや杜若のちの味さいらつ
あやうちあやうち」

まーい ▲女大「あかろいりあやうちまそり ▲さるが「あうーあ
いっしあぞーてくんみせへあ ▲男大「あやうちあやうち」
あうーあがら杜若めもやうとは海下されこが海小碎あ
と浪上戸あやれよつこぞよこざうふり ▲女大「ソリヤとん
びてびげよまゝ。ちめ入にあらせてたまるものう。ノウ後海
のかあはららろやドませいろくあ目おあひますと ▲さるが「
ありーかりーろいこんでざざうつさアが寿さうぬもひらの
まのりませ」
▲男大「コレはあいらう碎まーい。ゆもや杜若のちの味さいらつ
あやうちあやうち」



▲おせう「^{くさう}悪傍のり」の廻りませう。コリヤ、小傍^{こさう}うらそぞ。そ
 森^ねておるう。コレハ^{さう}さう。大傍^{おさう}どのむらりて。小傍^{こさう}めいどそへ
 やれたつ。▲「^{さう}つた」方丈のちまどのがハア。その大傍^{おさう}
 どのど。か小傍^{こさう}どのど。ちまどちうへくつらまかりま。おせう
 「ハア、^{そさう}その森^ねおむ方^{かた}み▲大傍^{おさう}「ナニウ」ちまどちうへられ
 ちづのめい。さうア、けいこころにむせておる。▲おせう「イヤ
 そのエいどいめいあまのちまどのゆくとた。そらうらどそへ
 ゆくうちうつておる。さうもやく追うけていつて。さうさう。さう
 傍^{かた}とるう。さうヤ、さう▲大傍^{おさう}「ハア」そのゆくとたのあり

ませぬ▲ちまど「……」とんぶそらうらうの氣どぞ。モシおせうさん。
 のみうちうつておまゐせへ。今にあつちも氣^きがつつていふ。
 つまるゆへうらつてきやせう▲さうが「イヤ、コリヤ。うつらずこ
 こアどぶんあつた。ハア。か小傍^{こさう}どのもそのやうに。大傍^{おさう}どやま
 るゆへんて。方丈^{かた}どのもさううらにむと面^{めん}倒^{たう}さるとち
 て。さうに「……」ともおれあつた。ハア▲ちまど「あつたどく」コリヤ
 後^{あひだ}病^{びやう}のかおのちつちやうとさう。さうもちまどへ▲おせう「そん
 ちら大傍^{おさう}どの。もののお供^{とも}づくと。さうちの小傍^{こさう}とさうとあまの
 のちまどのがづつねさうさう。さうもちまどへさうさうさう。さうの



とろふもねへさつづちあつぬべりらつけがき附髪うつつての緒うつつてふがちぢひ
まをけきど。マアけあんだい。どあでござります。まが
「あつ」それぞふらぞく「スケ」かゝまいつら。是れ
しておまませう。ヤレくせん。おおま法をして。まに。か
どくでござり中。まう「め」是れ。うら。うら。うら。今
かうに。ご。ご。ご。ゆので。お。お。お。ま。サア。ま。ま。ま。ぬ。ぬ。ぬ。ま
せぬ。う。ま。ま。イヤ。か。い。い。あ。あ。あ。ま。や。せ。う。髪。結。う。や。う
か。ら。ハ。イ。ぞ。ぬ。も。是。に。ま。る。が。コ。リ。ヤ。く。髪。結。ぶ。ん。う。ら。が。あ
る。い。ご。ご。ご。つけ。ヤア。ま。け。今。あ。あ。あ。附。髪。と。して。あ。い。て

あげま。う。う。に。ま。か。ま。ん。で。も。ハ。イ。フ。う。が。あ。ま。お。や。ア
なん。も。あ。の。ヤア。ま。け。そこ。ら。に。お。ち。て。い。ね。入。り。ま。て。あ
つ。あ。ら。う。じ。ま。せ。ま。る。が。ま。る。ぬ。の。ね。ぬ。や。ア。あ。の。う。ヤア。ま。け
い。ま。ご。ご。ご。り。ま。せ。ぬ。ま。て。ご。ご。ご。う。う。う。う。格。七。と。ん。そ。ら。ち。う。へ
お。ま。の。あ。あ。ぬ。が。ご。ら。け。て。い。ら。う。あ。ん。ご。う。格。ハ。ア。け。ま。ら
ア。ん。よ。う。つ。て。あ。る。い。ま。スケ。チ。ニ。そ。う。や。ア。茶。漬。ご。う。附。髪。の
ま。ま。ハ。テ。め。の。よ。う。あ。格。附。髪。あ。ら。ッ。ル。ア。お。寺。さ。ぬ。の。あ。い
ま。に。と。ま。つ。く。あ。ら。う。や。ア。あ。ご。ご。ご。あ。い。ら。あ。せ。う。チ。ニ。う。ら。う。つ。む
り。ふ。ド。レ。く。わ。ん。ふ。あ。ア。万。丈。と。の。い。小。僧。と。ま。た。ち。づ。て。ぬ。ら。を

明治十五年八月三十日翻刻御届

原版主

東京府平民

西村與八

東京府長

日本橋區馬喰町
貳丁目角

江嶋伊兵衛

日本橋區吳服町
稻荷新道拾貳番地

大坂 同 岡島真七 岡田茂兵衛 赤志忠七 前川源七郎 田中治兵衛 川勝徳次郎 片野東四郎 鬼頭平兵衛 池善平

柳原喜兵衛 岡島真七 岡田茂兵衛 赤志忠七 前川源七郎 田中治兵衛 川勝徳次郎 片野東四郎 鬼頭平兵衛 池善平

信州長野 同松本 陸前仙臺 上州高崎 野州朽木 下總佐原 同野田 駿州静岡 遠州濱松 越中富山

西澤喜太郎 高見屋甚左衛門 伊世屋安右衛門 文心堂 小林八郎 朝野利兵衛 茂木林藏 佐藤俊平 白木健二 大橋甚吾



附言

眉稽道中膝栗毛と云板元が親達の危介板が凡庫の
巢虫たらんと云成人が是を頻小頭痛に悩んで磨滅を
補ひせよ出せと促せども板元は金魂の大きき事發賣救も
如何あ達と云少しく是に力を得て頃日漸く再發賣を
四方小告りに幸ぬ明治廿聖世の腹被砕も不碎も
雅俗を問はば宜しく家業の暇に之を見ぬべ胞後絶倒
胸膈も自然と發きて無病息災百葉年の此壽命も
乞と傳合ふ板元の其効性もけりしみや世程より四方の
の此傳文遠里佳客の郵書を飛かして陸續購求て止
ざれに彼頭痛小脳一世話好の喧古被の標吹弟つて板元

一 孟 綺 言 式亭馬也 壹冊

忠臣藏編 癩氣論 同 他 壹冊

因舍芝居忠臣藏 同 他 初編貳冊 貳編貳冊

狂言因舍探 子ナリ 同 他 貳冊

行麻疹北浮言 同 他 壹冊

廓 蕪 用 同 他 壹冊

辰巳婦言 同 他 壹冊

同 弘頭源也 編 同 他 壹冊

四書 宗傳餘師 山東京傳也 壹冊

傾 城 觸 同 他 壹冊

小紋雅話 同 他 壹冊

契情買虎乃卷 同 他 壹冊

青標 新造圖彙 同 他 壹冊

手之筋 媧妓結ふ心 同 他 壹冊

結方 志げく千話 同 他 壹冊

洞房 夜半北条積 同 他 壹冊

有梯 錦乃重 同 他 壹冊

の世 錦乃重 同 他 壹冊

東京
同 同

北畠茂兵衛 稻田佐兵衛 山中兵衛 稻田源吉 小林新兵衛 丸屋善七 小林新造 穴山篤太郎 山中孝之助 山中北郎 博聞社 武田傳右門 牧野吉兵衛 牧野善兵衛 鈴木忠藏 森江佐七

東京
同 同

江嶋喜兵衛 柳川梅次郎 東生龜次郎 東生鐵五郎 小林喜右門 水野慶二郎 内藤泰次郎 出雲寺萬次郎 石川治兵衛 荒川藤兵衛 辻岡文助 内田彌兵衛 北澤伊八 松崎半造 淺倉久兵衛 岡村庄助 別所平七

高上川在公

東原信

壹冊

廓社火帳

同 他

壹冊

傾城買二筋道

風來山人著

二冊

彙軌本紀

高田金吾著
尾出風茶亭校

壹冊

自惚鏡

同 他

壹冊

娼妃地理技

同 他

壹冊

遊子方

田舎老人
多田之藤

壹冊

南窓文集

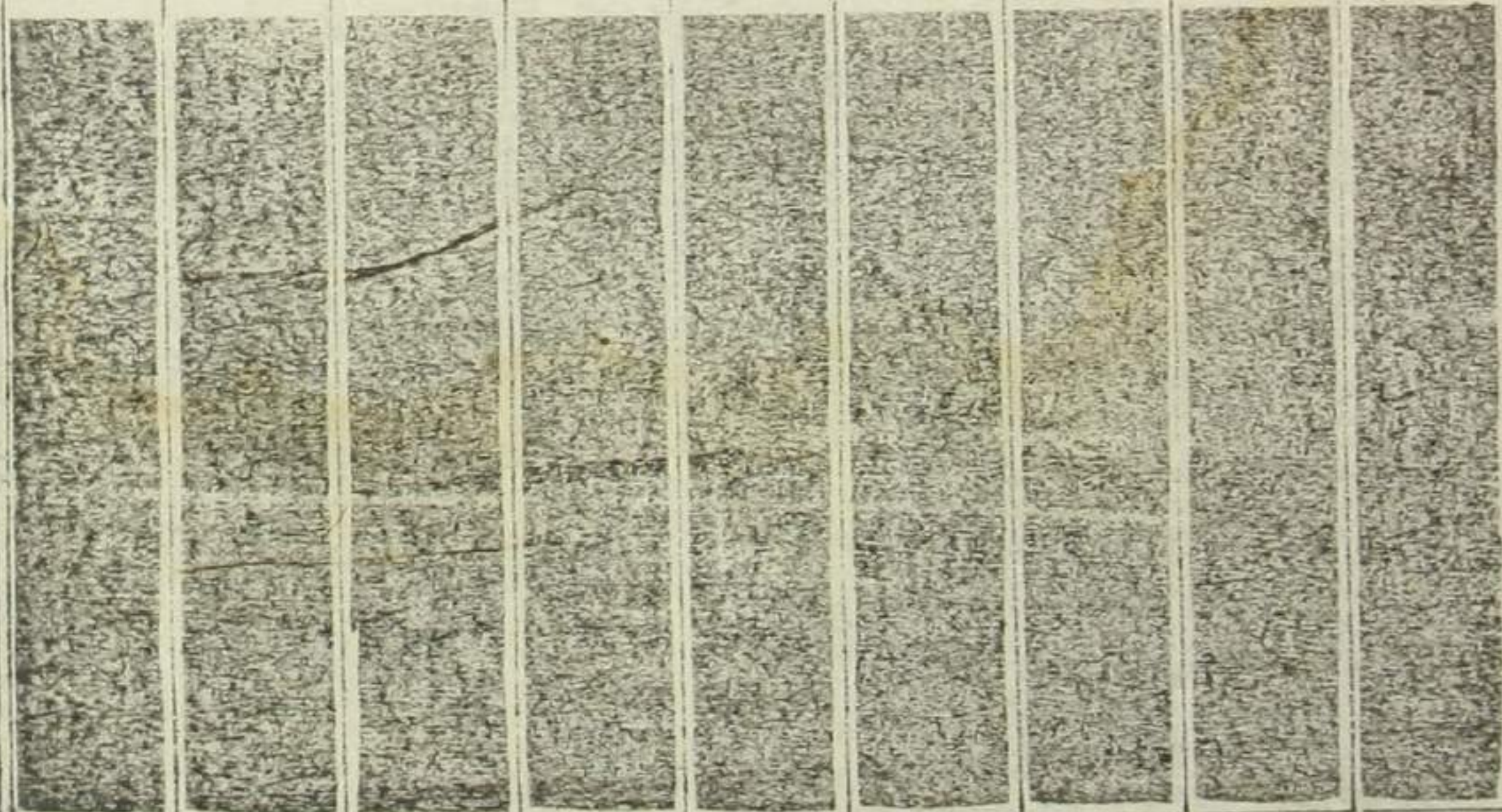
田舎金鳥

壹冊

浮世物語
古本
舊觀帖

東武
十巻
無校閱

壹冊



陸奥青森
同 弘前
同 八戸
同 羽後秋田
同 羽前山形
同 谷地
同 鶴岡
同 上野
信州長野
同 上田
同 小諸
同

池田吉助
平井客次郎
武田莊七
玉田平治郎
浦山太郎兵衛
本間金之助
市村五郎兵衛
荒井多四郎
八文字屋太左門
田宮五郎
地主文藏
萬屋利七
西澤喜太郎
池田政教
小山九郎兵衛
相場七左門
釜屋儀助

信州松本
越後長岡
同 小千谷
同 高田
同 越中富山
同 高岡
同 福光
加州金澤
同
同
同 大聖寺

高見屋甚左門
上田屋治八
鳥屋十郎
中村作平
小林屋定吉
室直三郎
本田勝太郎
大橋甚吾
土井宇三郎
車野義三郎
清水清左門
中村喜平
近田善平
池田善平
近八右門
深城伊三郎

